

## 競争戦略

山田 英夫教授

Email: hyamada@waseda.jp

### 1) 担当教員の専門分野(研究領域)・現在の研究テーマ

私の研究テーマは、デファクト・スタンダードの競争戦略、ハイテク分野の経営戦略・ビジネスモデルであるが、博士課程における研究指導は、私の研究領域とは関係なく、広義の経営戦略の範囲のものであれば構わない。研究アプローチとしては、事例研究をベースとした実践的な戦略研究を中心としており、企業の戦略実践に役に立つことを主眼に置いている。

### 2) 指導方針

指導の目的は、与えられた期限内に博士号を取得することにある。(博士課程修了を目的とはしていない。)研究論文は、受講者の「will」と「can」の組み合わせであると考えている。「will」に関しては、受講者もつ問題意識から出発するため、これを強くもつことが、研究のスタートとなる(実務経験を必須としている理由はここにある)。なお「will」に関しては、私は与えることはできない。「can」については、社会人を対象としているため、手取り足取りの指導は行わない。テーマの絞り方、方法論等に関する助言は惜しまないが、実際の論文作成の工程は受講生自らが計画し、遂行していくことが求められる。なお研究指導で、書物を輪読するようなことはしない。(もし必要であれば、自分で読んでくれることが求められる。)特に優秀と認めれば、論文の早期完成に向けて指導の進度を速めるが、逆に、期限内での論文完成の見込みがないと判断した場合には、退学をお薦めする場合もある。すなわち、先行きが見えない状態で、期間だけ長く引っ張るような指導はしない(受講生の機会損失も十分尊重する)。

### 3) 学生に対する要望・その他

私の研究スタイルが極めて実務オリエンテッドであるため、少なくとも3年以上の実務経験のある受講者を対象とする。また事例研究ができることを必須とするため、いずれかのMBA課程において、ケースメソッドの授業を履修した者を対象とする。こうした授業を受けていない場合には、博士課程在学中に、私がMBA課程で行っている授業を履修し、それに合格することが博士論文提出の条件となる。また過去、留学生の合格者はいないが、もし志望する場合には、論理的な日本語が書けることを最低条件とする(日本人も同様)。論文執筆の目的は、企業への戦略提言にあるため、抽象的すぎるテーマや文献研究だけの研究は、期待されない。なお論文執筆は日本語とする。